

(別添様式1)

平成23年度 新教育課程拠点校指定事業実施計画書

1. 実践研究校の概要(4月7日現在)

ふりがな	とさしみずしりつしみずしょうがっこう								ふりがな	むらかみ まさひろ				教員数		
学校名	土佐清水市立清水小学校								校長氏名	村上 正大				29		
児童・生徒数	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		特別支援学級	合計		
	児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童・生徒数	学級数		
学級数	54	2	53	2	55	2	71	3	74	2	68	2	8	3	383	16

2. 研究教科

算数科

3. 研究テーマ

言語活動を重視した授業づくり

4. 研究の内容

- ①言語活動を重視した授業づくり
- ②算数科を中心とした教科経営計画の実施、検証、作成及び取り組みの情報発信
- ③校内体制の充実と教員の資質指導力の向上

5. 到達目標及び取組目標

- ①学び(小中)の系統性、単元ごとに言語活動を盛り込んだ教科年間計画の作成、検証する。
- ②標準学力検査、単元テストなどにおいて県平均以上を目指す。
- ③学校評価アンケートの授業に関する項目において83%以上を目指す。

6. 検証方法

- ①学力検査や単元テスト、評価テストの実施する。(全国、県平均以上を目指す。)
- ②授業力診断シート、学校評価アンケートを実施する。(授業力診断シートでは3.3以上、学校評価アンケートでは83%以上の肯定的評価を目指す。)
- ③中間発表の実施(公開授業を行い、外部評価を取り、検証を行う。)

7. 研究成果の普及の方法

- ①公開授業、中間発表会を実施する。校内研修や講師招聘時には他校にも参加の呼びかけをする。
- ②ホームページ等による取り組みの積極的な情報発信する。
- ③研究冊子の作成、研究内容等を近隣校に資料の配付をする。

8. 3年間の研究計画

年度	内 容
第1年次	・研究計画、研究体制の整備、充実 授業研究を中心にした校内研修 ・年間指導計画、単元構想・計画等の作成 ・先進校視察研修 研究発表会の開催(中間発表)
第2年次	・研究計画、研究体制の充実、見直し 授業研究を中心にした校内研修 ・年間指導計画、単元構想・計画等の検証、見直し ・先進校視察研修 研究発表会の開催(中間発表)
第3年次	・研究計画、研究体制の充実、見直し 授業研究を中心にした校内研修 ・年間指導計画、単元構想・計画等の検証、見直し 研究発表会の開催(最終報告) ・研究報告書の作成

(別添様式1)

9. 年間事業計画

月	取組の内容		
	校内における取組(組織づくり・校内研修等)	公開授業研・研究発表会等	先進校視察・県連絡協議会等
5月	3部会(確かな学力、豊かな心、新教育課程)の取組 計画作成 授業づくりについて(言語活動の充実を図る授業づくりについて)方向性の確認 外部講師招聘	講師：西部教育事務所 指導主事	
6月	到達度検査等の分析、課題の明確化 全校公開授業 研究推進チーム会 算数科指導計画の検証(評価規準の言語活動に重点を置いて) Q-Uテストの実施 授業力診断シートの実施	全校研 講師：西部教育事務所 指導主事 公開授業 講師：西部教育事務所 指導主事	
7月	1学期の総括(取り組みについて検証・改善策検討) Q-Uテストの分析、検証 研究推進チーム会 評価テストの実施、分析、	全校研修 講師：東京学芸大学名誉教授 伊藤説朗先生	
8月	授業づくりについて(外部講師招聘) 言語活動の充実を図る取り組み 3部会の取り組み、課題の確認		◆先進校視察 全国算数・数学教育研究(神奈川県)大会：横浜国立大学付属横浜小学校等8/1～8/2 ◆第2回県連絡協議会 ◆教育課程研修会
9月	研究推進チーム会 学年部会 公開授業		
10月	全校公開授業 研究推進チーム会	全校公開授業 講師：東京学芸大学名誉教授 伊藤説朗先生	
11月	全校公開授業 Q-Uテストの実施、分析、課題の明確化 研究推進チーム会	全校公開授業	
12月	公開授業 2学期の取り組みの分析、課題の明確化 研究推進チーム会 評価テストの実施、分析	中間発表会(公開授業) 外部講師 東京学芸大学名誉教授 伊藤説朗先生	
1月	研究推進チーム会 学校評価アンケートの実施、検証 生活調査の実施、分析、検討	講師：西部教育事務所 指導主事	
2月	年間の総括、分析、課題の明確化 次年度指導計画の作成 単元構想図等の作成 学校改善プランの検証、プラン案作成	講師：西部教育事務所 指導主事	◆第3回県連絡協議会

※公開授業研は校外に案内する会

10. 加配教員の活用 (別業とすること)

※具体的な取組目標や取組内容を記載すること

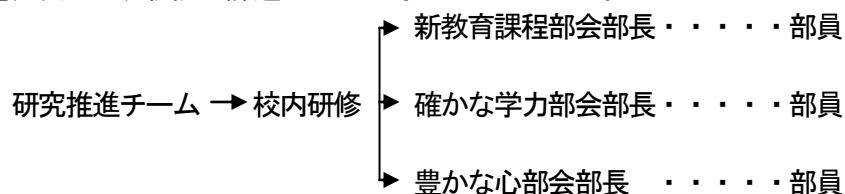
昨年度の取組みの上に立ち平成23年度も教育課程の編成や実施、評価において、組織的にOJTに取り組み、教員の研修の拠点校としての役割を担う学校づくりを行う。また、その先進的な取組みを普及することにより、県内教員の指導力の向上を図る。

そのために今年度は以下の点に重点を置いて取組みを行う。

1. 研究体制の充実

昨年度の取組みを検証した結果、校務分掌の細分化により、とりまとめが十分にできず、研究のつながりがはっきりしなかったとの反省がでた。そのため今年度は研究主任が新教育課程部会の部長を兼務することで、教育課程の取組みを明確にすると共に充実を図ることとした。

校内研究のテーマを「確かな学力と豊かな心を身につけた児童の育成」として取り組むこととした。組織的にOJTに取り組むための組織として、研究組織を今年度も3部会として取組みを進めることにした。また、それぞれの部会の取組みが共有化され、研究を進めるために、研究推進チームの会を定例化し、検証と課題について考えることとした。



2. 具体的取組み

『言語活動を重視した授業づくり』を進めるために

- ①研究体制の中心的な役割を担い、研究テーマに沿った研修計画を推進する。
- ②新教育課程の趣旨をふまえた計画や算数科における教科経営計画を作成するための推進役を果たす。
- ③算数科における言語活動を重視した授業づくりに重点を置いて、理論と実践の取組みを行う推進役を果たす。
 - ・公開授業や研究授業等、算数科の授業実践を通して言語活動を重視した授業のあり方を研究する。
 - ・思考から論述(表現)を取り入れた『授業づくり』の研究を進める。
 - ・授業の中で言語活動を意識した展開を考える。
 - ・評価規準の効果的な活用を取り入れる。
 - ・学年ごとの言語活動の目標を明確にする。
- ④到達目標を設定し、PDCAサイクルのもと研究を進め、児童の学力向上の状況を授業力診断シートや授業評価、学校評価等のデータをもとに検証する。
- ⑤公開授業や研究授業などで模範授業や指導・助言を通して研究の普及に努める。
- ⑥新教育課程をふまえた学習指導方法の工夫と改善の1つとして、少人数指導、習熟度別指導を取り入れて児童の基礎学力の定着と学力の向上を図るための推進役を果たす。
- ⑦先進的な取組みや効果的な取組みが校内研修の場において進められるように研究をする。